



334複合地区スローガン
温故知新ー創造と挑戦とスピー
ド、さらなる価値ある奉仕を

334ーB地区スローガン
「ありがとう」感謝の心で
We Serve

岐阜西ライオンズクラブスローガン
一致団結ライオンズ魂、日本から世界へ発

2014年 6月 第二例会 776回
6月24日(火) 於 ホテルグランヴェール岐山 18:00～

例会プログラム

第776回 フィナーレ例会

「例会」	司会L.山本
1 開会ゴング	会長L.小野木
2 国歌並びにライオンズヒムの歌斉唱	
3 ゲスト及びビジター紹介	L.熊澤
4 慶祝行事(結婚祝)	L.小野木
5 アワードの伝達	L.小野木
6 会長年次報告	L.小野木
7 幹事報告	L.大橋
9 各委員会報告	
10 テールツイスター登場	L.長谷部
11 出席報告	L.小林
12 会計報告	L.広瀬(真)
13 閉会ゴング	L.小野木

「懇親会」	司会L.山本
1 開宴の言葉	前会長L.伊藤
2 三役へ花束贈呈	
3 乾杯	第一副会長L.乙部
4 アトラクション	
5 ライオンズローア	第二副会長L.山崎
6 また会う日まで	
7 閉宴の言葉	第三副会長L.志智

会長・幹事報告

第776回 幹事報告

- この度、334-B地区第1R第1Z、各務原ライオンズクラブと各務原飛鳥ライオンズクラブが合併することが承認され、次年度より地区内クラブ数が1クラブ減少し、81クラブとなります。なお、各務原ライオンズクラブが存続クラブとなり、第1Zは6クラブとなります。
- 6月23日(月)に、5月16日にご逝去された岐阜南ライオンズクラブ終身会員L.安部源平の「お別れの会」が岐阜グランドホテルに於いて執り行われ、会長L.小野木、幹事L.大橋が参列致しました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- 7月7日(月)2013～2014年度会計監査を事務局に於いて実施します。幹事L.大橋、会計L.広瀬(真)、監査委員L.後藤、L.小塩が出席致します。
- 次年度クラブカレンダーを配布します。

会計報告

ドネーション	29人	金額	175,000円
ファイン	人	金額	円
Boxファイン		金額	175,000円
合計	29人	金額	

出席報告

会員数	49人
出席数	44人
出席率	89.8%

次回例会案内

日時: 7月8日(火)12:15から
場所: ホテルグランヴェール岐山
例会名: 就任式例会

慶祝行事

結婚祝 3日 L.浅野 宜教 12日 L.井ノ浦 健

会長年次報告

会 長 L.小野木 慶明

最後の会長挨拶となりました。

一年間、本当に皆様の御協力に支えられまして、なんとか本日フィナーレ例会を迎える事が出来ました。誠にありがとうございました。また、先ほど理事会でも申し上げましたが、理事の皆様を始め、幹事、会計には特別にお世話になり、感謝しています。

年度が始まる前は、好きなようにやらせていただこうと思いましたが、なかなかそういうわけにいかなかったのが現実です。最近流行りの歌にあるように「ありのままに生きていく」ということは理想論であり、実際そのように生きていくのは難しいので、世間が共感し、歌が流行るのではないかと感じます。

私も50%くらいしか、やりたいようにやれなかったかと思っています。しかし、50%でも自分の思いが届けばそれでいいのかなと思います。皆様本当に一年間ありがとうございました。

1. 出席 2013年7月第一例会～2014年6月第一例会まで
平均 93.5 % 内 100 % (メイク・アップ含む) 2 回
2. ドネーション・ファイン
2013年7月第一例会～2014年6月第一例会まで
ドネーション 2,057,000 円
ファイン 173,000 円 合計金額 2,230,000 円
3. アクティビティ 合計金額 1,693,954 円
(内訳別紙参照)
労働奉仕 905 時間
献血 200ml 15 名 400ml 189 名 成分 0 名
4. アワード ◎ 社会福祉優秀賞



特別記事

フィナーレ例会



ウィーサーブ！



会員キー賞
(スポンサー 2 名以上)
L. 武藤寛治



三役花束贈呈 お疲れ様でした。



28年組でジャンケン勝負！



宝くじ
ジャン
ケン
ゲーム
の優勝



各委員会の皆様
一年間ありがとう
ございました。



結婚祝



3日 L.浅野 宣教 12日 L.井ノ浦 健

ご結婚記念日おめでとうございます。

一年を振り返って・・・

『ドッペルゲンガー』

会長 L.小野木 慶明

私には趣味と呼べるようなものはゴルフぐらいしかない。先日他界した父のように書道の達人のレベルでもない。父の書道のレベルをゴルフで例えるならシングルプレーヤーであり、その辺のプロとやっても勝つかも知れない、というレベルだ。ちなみに私はといえば、長年やっている割にはとても敵わないレベル。20年ぐらい前はシングルを目指していた時期もあった。ちょうど岐阜西ライオンズクラブに入会した頃である。友人やゴルフ仲間からもスイングや球筋はシングル級と言われ、いい気になっていたが、なかなか結果が出なかった。そのうちゴルフへの熱意が冷め、いつしかお付き合いゴルフが出来れば良い、人に迷惑さえかけなければ、だからスコアもそこそこで良いと思うようになっていった。言い訳を探すかのように・・・・・・・・

いつも行く練習場の端っこの打席に入ろうとしたら先客がいて駄目だった。平日の夜間、夜遅い時間だとこの練習場はガラガラで、特に端っこの打席は周囲にも誰もいない静かなお気に入りのポジションだった。だが先客がいたことなど初めてだった。仕方がないのでいつもの打席の隣の打席に入ることにして、お金を払った。2千円でゆっくり打てば2時間打てる。集中すれば非常に有効なお金と時間の使い道になる。2千円を払うと財布には4千円しか残らなかった。銀行に行って、お金を下ろさなければ、と思った。

打席に向かって歩いていくと、先客の打っている後ろ姿が見えてきた。自分と体型が似ているという第一印象だった。近づくと、体型は似ていても、打っている感じから30代後半から40代前半だと思えた。素晴らしいボールを打っていた。彼の背中を見ながら打席に入った。若さは比べものにならないが、体型は似ているので参考になるかも知れないと思った。シューズを履き替え、準備運動をしながら、さり気なく彼の道具を観察した。良い球を打っている人の道具が気になるのは、自信がない証拠だったが、いつの間にか、それが癖ようになってしまっていた。キャディーバッグも、アイアンもウッドも、全て相当古いものだとすぐに分かった。どれも、10年くらい前に自分が使っていたものだったからだ。妙な親近感が湧いたが、同時に、あまりに10年くらい前の自分の頃に似すぎていることに少し気味が悪いなあ、とも思った。練習を始めた。ボールを打ち出せばすぐに夢中になり、隣の打席のことなど全く気にならなくなる。本番のゴルフ場では、全く駄目だが、練習場ではシングルも顔負けのショットが打てるのが、ここ数年の自分のゴルフだった。練習場で打てる球を、せめて何割かでも本番のコースで打てれば、どんなにゴルフが楽しいだろうか。そういう思いだけが練習をさせた。ゴルフはスコアだけではないと思っているが、コースに行くことへの情熱は毎年徐々に下がってきている。面白くないからだ。頭では、そんな自分を否定しているが、心は理性や知性とは無関係に動き、動き出したら止まらない。不安や迷いを打ち消すように練習をした。今日も最高の調子だと気持ちが良かった。ふっと視線を感じて、前を見ると、前の打席で打っていた若者が振り返ってこちらを見ていた。

息をのんだ……それは30台後半の頃の私だったのだ。クローンか？ 手の込んだドッキリか？ 夢か？彼は言った。「呑気なもんだなあ」と。自分の声を録音した声と同じ声だった。

「ドッペルゲンガー」もう一人の自分自身と会ってしまう現象。自分のドッペルゲンガーと会うと死んでしまうと言う話もある。持っていたクラブが手から落ちそうになる。

「お前は誰だ？」 自分の声が震えているのが分かった。

「俺は、あんたなんだろうな」彼は少し笑って、続けて言った。

「それにしても、呑気さがゴルフに出ている。そこまで緩ければ、練習場でしか当たらないだろうに。

酷いね」

混乱する頭を整理しながら、反論しなければいけないと思った。もし、自分だとしたら、最も生意気で、相手を傷付けることを恐れなかった年代の自分と戦うことになる。そう言う場合は、先制攻撃だと思った。

「私はシニアに近い年齢のゴルファーなので、お前のようにアスリートなゴルフを強制される必要がない。楽しむことが一番だ。酷いと言われるほど酷くはない」

彼は、真っ直ぐに私を見つめて言った。

「アスリートゴルフから引退しようが、逃げようが、それは自由だけど、エンジョイゴルフだろうと何だろうと、パープレーに挑戦する姿勢は変わらないはずだ。そう言う目標は、アスリートゴルフとは無関係に全てのゴルファーに許されている権利だと思うけど、そんなことも忘れてしまったのか？情けない……」

完全に制圧されていた。彼は、一方的に私を諭した。彼は、シングルゴルファーに挑戦する為に如何にシンプルなこと大切かを話し、現在の私のスイングのどこがシンプルさに欠けるかも指摘した。そして、シングルに挑戦し続ける限り、ゴルフへの情熱は消えないと言った。私の反論にも、真剣にスコアを上げようとしてプレーしている同伴ゴルファーの気持ちをわかっていない。そう言う甘さは、結果と

して、スコアが悪い人を馬鹿にしているのだと言われた。納得していた。生まれて初めて、70台でプレーできた時のことや月例でアンダーでプレーできた充実感を思いだしていた。ゴルフは、スコアがあるから残酷なのだが、夢も持てるのだ。シンプルなゴルフについてもっと聞きたいと思っていた。

「ちょっと待った。何か、飲みながら話そう」

自動販売機に飲み物を買に行った。何だかよく分からないが、ゴルフへの情熱が再燃する自分を感じていた。そして今の自分だって出来るのだという微かな希望も生まれていた。

好みは変わっていないはずだと、同じ飲み物を2本買おうと自動販売機にお金を入れようと、財布を開いた。だが4千円あるはずなのに、2千円しかなかった……

思わず振り返った。しかし端っこの打席には誰もいなかった。彼が使っていたはずの用具も一切なくなっていた。ただ、フロントでお金を払ったときに渡される打席を使っている証拠の札が2個並んでいるだけだった。一つは自分のもので、一番奥になる端っこの打席は……。自動販売機で買い物をするのを止めて、打席に戻ったが、彼がいた形跡は全くなかった。ただ、彼の残した言葉だけが頭の中に残っていた。

ドッペルゲンガーは、心理学では幻視の一つだと言われている。見たら死ぬというのは、都市伝説のようなもので、物語に過ぎない。幻かどうかは分からないが、彼に会って、それまでの私は間違いなく死んでしまった。だらしない緩いゴルフをしていた私は、秒殺で殺されてしまったのだ。ドッペルゲンガーに会った人間は死ぬというのは、ある意味で本当なのだ、と生まれ変わった私は思った。打席に戻り彼に言われたようにシンプルに特化したスイングで練習してみた。もう練習は十分にしているのだと気が付いた。練習場に来ているヒマがあったら、コースで自分を試したいという気持ちが湧いてきた。挑戦することがゴルフの醍醐味である。理屈はいらないのである。

昔の自分と今の自分。その「むかし」と「いま」の境界はいつなのであろうか。それは作家の司馬遼太郎の言葉を借りれば、「変化した時」を境にしている。変化したときを潮目にそれ以前が「昔の自分」であり、それ以後が「今の自分」なのだという。つまり、自分が変わらなければ常に「昔の自分のまま」ということ。岐阜西ライオンズクラブに入会した時の自分と会長を務めさせてもらった自分。果たして変化しているのだろうか。

皆さんはどう思いますか？

幹事 L.大橋 良広

この1年、会員の皆様の御協力を賜り、誠に有難うございました。入会して5年目の私が大過なく幹事の大役を勤める事が出来たのも、偏に皆様の御協力のおかげと感謝の気持ちで一杯です。ここにあらためて御礼申し上げます。

幹事として、1年間、岐阜西ライオンズクラブのすべてのアクトに関わらせて頂き、ライオンズクラブのボランティアの素晴らしさを再度認識することが出来ました。アクトに招待した方から、直接感謝のお言葉を頂いたり、喜ぶ顔に間近で接する事が出来、私の中で大変心に残る一年になりました。また、他クラブの会長、幹事さんと交流する機会もあり、今後のライオンズ活動において大きな財産になりうる事を嬉しく思います。

この一年で感じた喜びや苦労を忘れずに、今後も与えられた役割をしっかりと果たせるように前向きにクラブに貢献させて頂きたいと思っています。

会計 L.広瀬 真人

1年間会計を務めさせていただきましたL.広瀬真人でございます。

年度の初めは、会員数も少なく厳しい予算でのスタートとなり不安もありましたが、6名もの新入会員を迎え、会計としてスムーズにクラブ運営を終えることが出来ました。会員皆様の御協力、誠にありがとうございました。また、会長、幹事ともに一致団結し、クラブ運営を円滑に進めることが出来ました。ドネーションに関しましては、予算を遥かに上回る結果となり、会員皆様のお気持ちに感謝し、御礼の言葉とさせていただきます。

